

第6学年B組 家庭科学習誘導案

教諭 福島 未佳

単元 つくろう 家族のオリジナルバッグ

(本校教育課程 家庭科単元 第4項 6月中旬～7月中旬 10時間+課外)

「単元の問題」を提起する根拠

○ 子どもの興味・関心の実態

本学級の子どもは、「5年生のときに作ったランチョンマットを給食のときに使っているよ。」「ティッシュケース入れをお母さんにあげたよ。」「ミシンを使うと速く丈夫にできるね。」などと自分が作ったものに対して愛着をもって使ったり、ミシンを活用することに興味をもったりしている。そこで、家庭科コーナーに、形や大きさなどが違うトートバッグや巾着袋を置くと、「布の端と端をミシンで縫ったらできないかな。」「自分でもトートバッグや巾着袋が作れるかな。」「お母さんにお弁当袋を作ってあげたいな。」などのつぶやきや会話が聞かれるようになり、布を用いた袋の製作に対する関心が高まっている。

○ 子どもの能力の実態

本学級の子どもは、第5学年の手縫いやミシン縫いでの学習において、ボタンの付け方、簡単な小物やランチョンマットの製作など、目的に合った縫い方を考えながら製作することができるようになってきている。しかし、技能として確実に定着している子どもは少なく、手縫いやミシン縫いをする際に、道具の使い方や縫い方を教科書や動画で確認する姿が多く見られる。また、自分が作りたい物の製作計画を立て、それを基に製作することができるようになってきている。しかし、製作計画を立てることはできるが、そこから製作を工夫したり、製作計画を見直したりすることまでは十分にできていない。これは、工夫して製作した経験が少ないことや効率よく製作していくための見通しをもつことができていないことが原因として考えられる。

○ 社会からの要求

全国小学校家庭科教育研究会が行った「家庭科の学習をしてできるようになったことと実践の比較」のアンケート結果において、布を用いた製作に関する項目の「手縫いやミシン縫い」では、約8割ができるようになったと答えている。しかし、実際に家庭でも実践している割合は3割程度である。これは、身の回りにある布製品のほとんどが既製品であり、破れたり、ひもが取れたりすると、補修することよりも買い直すことの方が、簡単で便利であるからである。こうした中で、子どもが、少しの補修であれば簡単にできることを知り、そこから、ものを大事に長く使うことや自分で作りだすことの楽しさを味わうことが必要である。このように、目的に応じた縫い方や用具の安全な取扱いについて理解し、家族のためのオリジナルバッグの製作計画を考え、計画に沿って製作することができるようになることは、自分や家族の生活を豊かにしていこうとする態度を育成する上で、意義深いと考える。

○ 教科系統上の要求

本学級の子どもは、第5学年までの家庭科学習において、製作に必要な用具の安全な取扱い方や手縫いやミシン縫いでの仕方を理解し、目的に応じた布製品の製作計画を考え、製作してきている。ここでは、生活を豊かにするための布を用いた布製の袋の製作について課題をもち、家族のためのオリジナルバッグの製作計画を考える。その際、製作を工夫し、布を用いて製作したものを生活に生かそうとする力を養い、家族の一員としての自覚をもてるようにする。この学習は、中学校での、製作する物に適した材料や縫い方、用具の安全な取扱い、資源や環境に配慮した生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画及び製作の工夫を取り入れた学習へと発展していく。

単元の問題

製作計画を考えて、家族のためのオリジナルバッグをつくろう。

- オリジナルバッグの製作計画を考えよう。
- オリジナルバッグの工夫を考え、製作計画を見直し、製作しよう。
- オリジナルバッグの製作発表会をしよう。

目 標

<知識及び技能>

- 製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解することができる。
- 手縫いやミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解するとともに、適切に行うことができる。

<思考力、判断力、表現力等>

- 生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫し、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。

<学びに向かう力、人間性等>

- 家族の一員として、生活をよりよくしようと、家族のためのオリジナルバッグの製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、ふり返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。

誘 導 の 着 眼

【着眼1】 家庭生活に関わる思いや願いを喚起する働きかけ

(1) 思いや願いを喚起する対象との出合わせ方の工夫

子どもが家族のために、「こんなバッグを作ってあげたいな。」「○○なバッグが作れるようになりたいな。」という思いや願いをもつことができるように、導入段階において、対象との出合わせ方の工夫を行う。

出合わせ方の工夫

- ① 家族がどのような布製の袋を使ったり、必要としたりしているかについて調べたことを基に、家族のために作りたいオリジナルバッグについて交流する活動を設定する。
- ② どのようなオリジナルバッグを作りたいかイメージをもつことができるように、特徴や機能の違うトートバッグや巾着袋を提示する。
- ③ 製作の見通しをもつことができるように、第5学年での布を用いた製作での製作過程をふり返る活動を設定する。

(2) 生活を豊かにする方法を求め続ける状況づくりとその支援

子どもが、「図書館に行ったときにたくさん本が入るバッグを作りたいな。」「買い物したときに便利なバッグを作ってあげたいな。」などという思いや願いをもつことができるように、家族の生活を豊かにしていく方法を選択・決定する場を設定する。

選択・決定する対象	教師の支援
<ul style="list-style-type: none"> ○ 目的に合った袋の形や布の大きさ、材料 ○ 目的に合った製作過程 ○ 工夫点を基にした製作計画 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不織布で簡易に試作し、オリジナルバッグの布の大きさを決める試しの活動①を設定する。 ○ 目的に合った形や作り方をイメージしやすいように、製作見本や段階標本、分解標本を掲示する。 ○ 目的に応じてどのような機能があればよいかを考え、それを基に、工夫したいことをどのように取り入れるか考える試しの活動②を設定する。 ○ 試しの活動②を基に、製作計画を見直す活動を設定する。

【着眼2】 よりよい解決方法を見いだす学び合いへの支援

オリジナルバッグの目的に応じて、「製作計画が目的にあったものか。」「生活の営みに係る見方・考え方（快適、便利）を働かせて工夫しているか。」について見直すことができるように、学び合いにおいて以下の手立てを講じる。

- 課題別（持ち手、ポケット、マチ）にグループを構成し、試しの活動②を行いながら、目的に合った工夫かどうかについて話し合う活動を設定する。
- 全体交流の中で、課題別（ポケット、マチ、持ち手）に、目的に応じてどのような工夫を行ったかについて出し合う活動を設定し、生活の営みに係る見方・考え方の「快適」「便利」の視点を色分けし、板書する。

展開計画（総時間数 10 時間＋課外）

	主な学習活動	教師のねらいとその手立て	評価の規準と観点
出会う・見通す	<p>○ 家族がどのような布製の袋を使ったり、必要としたりしているか調べる。</p> <p>課外</p> <p>1 家庭で使っている布製の袋や生活を豊かにする布製の袋について交流し、学習問題を設定する。 1</p>	<p>○ 家族の思いや願いを知ることができるように、家族がどのような布製の袋を使ったり、必要としたりしているか調べる活動を設定する。</p> <p>○ 生活を豊かにする布製の袋について学習問題を見いだすことができるように、家庭で使っている布製の袋について、どうして生活を豊かにするのか交流したり、手縫いやミシン縫いで製作計画をふり返ったりする活動を設定する。</p>	<p>○ 生活を豊かにする布製の袋について学習問題を見だしている。 (主体的に学習に取り組む態度)</p>
	<p>中心問題 製作計画を考えて、家族のためのオリジナルバッグをつくろう。</p>		
たぐひ	<p>分析問題 1 オリジナルバッグの製作計画を考えよう。</p>		
	<p>2 オリジナルバッグに必要な材料や製作計画について考える。 1</p>	<p>○ オリジナルバッグに必要な材料や製作計画を理解することができるように、製作見本や段階標本、分解標本を提示する。</p>	<p>○ オリジナルバッグに必要な材料や製作計画を理解している。 (知識・技能)</p>
	<p>分析問題 2 オリジナルバッグの工夫を考え、製作計画を見直し、製作しよう。</p>		
	<p>3 オリジナルバッグの製作の工夫を考え、製作計画を見直す。 ＜本時 2 / 2＞ 2</p>	<p>○ 布の大きさを決めるには、「縫いしろ」や「ゆとり」を考える必要があることを理解することができるように、不織布で簡易に試作する試しの活動①を設定する。</p> <p>○ 快適・便利の視点を取り入れた、よりよい製作計画に付加・修正することができるように、試しの活動①でつくった不織布の試作に、工夫したいことをどのように取り入れるか考える試しの活動②を行い、それを基に「どうしてその工夫にしたのか。」「目的に合ったものか。」グループや全体で話し合う活動を設定する。</p>	<p>○ 布の大きさを決めるには、「縫いしろ」や「ゆとり」が必要であることを理解している。 (知識・技能)</p> <p>○ 快適・便利の視点を取り入れた、よりよい製作計画に付加・修正している。 (思考・判断・表現)</p>
	<p>4 製作計画に沿ってオリジナルバッグを製作する。 4</p>	<p>○ 目的に応じた縫い方を理解し、適切に行うことができるように、製作計画をその都度確認するように伝える。</p>	<p>○ 目的に応じた縫い方を理解し、適切に行っている。 (知識・技能)</p>
<p>5 オリジナルバッグの製作をふり返り、評価・改善する。 1</p>	<p>○ オリジナルバッグの製作を評価・改善することができるように、グループでよかった点や次に生かしたいことについて話し合う活動を設定する。</p>	<p>○ オリジナルバッグの製作を評価・改善している。 (思考・判断・表現)</p>	
生かす・広げる	<p>分析問題 3 オリジナルバッグの製作発表会をしよう。</p>		
	<p>○ オリジナルバッグを活用する。 課外</p> <p>6 製作発表会を行う。 1</p>	<p>○ オリジナルバッグのよさを実感することができるように、家族にオリジナルバッグを1週間使用してもらい、使用した感想をインタビューする活動を設定する。</p> <p>○ 家族の一員としての自覚をもつことができるように、製作発表会を設定する。</p>	<p>○ 家族の一員としての自覚をもっている。 (主体的に学習に取り組む態度)</p>











(1) 主眼

試しの活動①でつくった不織布の試作に、工夫したいことをどのように取り入れるか考える試しの活動②を行い、それを基に「どうしてその工夫にしたのか。」「目的に合ったものか。」グループや全体で話し合う活動を通して、快適・便利の視点を取り入れたよりよい製作計画に付加・修正することができるようにする。

(2) 準備

試しの活動①で作った袋

(3) 展開

学習活動と子どもの意識	誘導上の留意点 (○) と評価 (※)
<p>1 前時の学習から、本時のめあてをもつ。</p> <p>ゆとりや縫いしろを考えて布の大きさは決められたよ。あとは、オリジナルバッグにポケットを付けたいな。</p>  <p>家族の目的に合ったオリジナルバッグにする工夫を考えよう。</p> <p>2 試しの活動①でつくった不織布の試作に、同じ課題のグループで話し合いながら、工夫点を取り入れる試しの活動②を行う。</p> <p>犬の散歩のときに持っていくオリジナルバッグの持ち手の長さや付ける位置を悩んでいるよ。</p> <p>腕にかけて持つなら持ち手は短い方がいいと思うよ。でも、肩からかけるようにするのなら、ひもの長さをどのくらいにするかが大切になると思うよ。あと、付ける位置も真ん中より、端に付けた方がいいと思うな。</p>   <p>3 製作計画を見直す。 (1) 全体交流を行う。</p>	<p>○ 本時のめあてをもつことができるように、前時の学習の課題(より目的に合ったオリジナルバッグにする工夫)をふり返り、見いだした問い(持ち手, ポケット, マチを試しに付けてみたい)を確かめる。</p> <p>○ 家族の目的に合った工夫を考えることができるように、課題別(持ち手, ポケット, マチ)にグループを構成する。</p> <p>○ 工夫点を取り入れることができるように、試しの活動①でつくった不織布の試作に、同じ課題のグループで話し合いながら、工夫点を取り入れる試しの活動②を設定する。</p> <p>○ 家族の目的に合った工夫か確認することができるように、「どうしてその工夫にしたのか。」「目的に合ったものか。」の視点を基にグループで話し合う活動を設定する。 【着眼2】</p> <p>○ 生活の営みに係る見方・考え方の「快適」「便利」の視点を基に工夫することが大切であると気付くことができるように、課題(持ち手, ポケット, マチ)ごとに、工夫点を出し合う活動を設定する。 【着眼2】</p>
<p>【持ち手】</p> <p>重いものを入れたときに腕や肩が痛くならないように、持ち手を太くしたよ。</p>  <p>両手が使えるように持ち手を肩からかけられるようにしたよ。</p>  <p>【ポケット】</p> <p>小物の場所がすぐ分かるように、オリジナルバッグの内側にポケットを付けたよ。</p>  <p>スマートフォンが出し入れしやすいように、ポケットを少し大きめにしたよ。</p>  <p>【マチ】</p> <p>たくさんものを入れてもいいように、マチを大きめにしたよ。</p>  <p>弁当箱が傾かないように、弁当箱にぴったりなマチを付けることにしたよ。</p> 	
<p>快適さや便利さを考えた工夫を取り入れるとよい。</p> <p>(2) 自分の製作計画を見直す。</p> <p>4 本時学習をふり返る。</p> <p>家族の目的に合った工夫を考え、どこに、どのような大きさのポケットを付けるか考えることができました。次は、家族が喜んでくれるように製作計画に沿って作っていきたいです。</p> 	<p>○ 製作計画を見直すことができるように、「家族の目的に合っているか。」「快適・便利」の視点を取り入れた工夫になっているかふり返る活動を設定する。 【着眼1】</p> <p>※ 快適・便利の視点を取り入れた、よりよい製作計画に付加・修正している。</p> <p>○ 本時の学習をまとめ、次時の製作への見通しをもつことができるように、本時学習をふり返る活動を設定する。</p>